

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670102654
法人名	有限会社コリドー
事業所名	グループホーム 中川原の家
所在地	富山市中川原399-1
自己評価作成日	令和2年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

季節に合わせたイベントを毎月企画し、近隣の商業施設や観光スポットなどへ外出する機会を設け、入居者様の気分転換が行えるよう心がけています。
ご家族からはアットホームな憩いの場であると評価していただいています。
入居者様ご家族様と協議し、信頼関係を築きながら介護サービスを利用していただけるよう努めております。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和2年10月14日	評価結果市町村受理日	令和2年12月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「ゆったりと楽しく 自由にありのままに その人のペースに合わせて 残された力で暮らしのよろこびと自信を」の理念のもと日々の介護に取り組んでいる。管理者・ユニットリーダーとスタッフ、看護師、介護支援専門員は関係が良好で、担当者会議も複数で開催し協議の上で介護計画作成を行っている。家族との関係も大切にしており、毎月必ず担当職員から家族へ報告書を送り、家族会での交流もある。周囲にはホームセンターや飲食店が立ち並んでおり、その立地条件を生かし外出頻度も多く、毎月外食にも出かけている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の 人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者 とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解 者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく、自由にありのままに、そのひとのペースに合わせて残された力で暮らしの喜びと自信を」が当施設の理念であります。入居者一人ひとりのペースで、安心して生活できるよう心掛けております。	理念は各階の出入り口と会議室に介護方針と共に掲示し、いつでも確認できるようになっている。理念の通り一人ひとりのペースに合わせ、できるところはなるべく自分で言い、自信につながるようなケアに日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の納涼祭への参加・地域の保育園・中学生との交流・ボランティアの方々の慰問など交流の機会があります(今年はコロナウイルスの流行から交流の機会が設けられず、残念です)。	新型コロナ感染拡大前までは町内会から誘われて公民館での納涼祭に参加したり、近くの保育園と交流があった。現在も町内会長は気にかけており、電話で連絡を取ることもあり、コロナ禍でも地域との交流がある。	回覧板を活用し、地域の防災訓練参加状況や施設内の生活、活動内容を掲載した広報誌等で地域に発信することで、地域とより深く繋がることのできる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域包括支援センター・民生委員の方々との交流の機会はあるものの、地域への情報発信は積極的に行っておりません。事業所情報やイベント内容をホームページ・ブログに掲載しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近運営推進会議を通してコロナウイルスに関しての情報交換や感染対策について意見交換を行っております。	民生委員2名、地域包括支援センター職員、ホームを設計した設計士が委員となり、活動報告をしたりドライブ先を教えてもらったりなど適宜相談をしている。現在は新型コロナの影響で集まれないため電話で情報交換などを行っている。	全家族に開催の案内をしたり、消防団の方に相談をする場を設けるなど、さらに運営推進会議を有効に活かす場とする取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター・富山市介護保険課と当施設のサービスの見直しやコロナウイルス対策について情報交換を行っております。	適宜電話で新型コロナ対応や身体拘束のことなど情報交換や意見交換など行っている。日々の活動報告等は運営推進会議を通じて行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全のため、玄関ドアの施錠を行っております。グループホーム内での身体拘束廃止に関する研修や代表者を含む事業所全体での勉強会を開催し、身体拘束に繋がるケアが行われていないか、改善に向けて取り組んでおります(玄関の施錠についても散歩を希望されれば職員が同伴しながら外出の機会を設けるなどの配慮に努める)。	指針を整え、それとは別に身体拘束をしない宣言を玄関に掲示し、身体拘束適正化に努めている。勉強会等ではテスト形式で身体拘束の事を確認している。1件身体拘束の事例があったが、訪問看護や家族と協議を重ねた上で同意を得て適正な手順を踏んで行われていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回の身体拘束・虐待の防止に向けた研修と代表者を含む事業所全体での勉強会(次回開催の内容は言葉による身体拘束の理解)を含め、虐待の防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用中の入居者様がおります。担当の後見人・関係者と本人が施設生活を送る上でどのような支援が必要か、連携の取り方など協議しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス内容の確認・支援が必要な点について協議しサービス開始となります。また身体面等の変化から支援の形を見直す機会も設けさせております。今年度は中止となりましたが、毎年の家族会の際にも再度、サービスの確認・見直しの機会を設けさせていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は家族会とご家族様に運営に関するアンケートの実施は行っておりませんが、コロナウィルスの流行から面会制限を設けさせていただくにあたりビデオ通話などご家族様との交流の形を代表者・施設長らと協議しました。今後もご家族様からのご意見を運営に活かしてまいります。	毎月入居者ごとに状況報告を書面で行っている。コロナ禍の今は家族から電話や手紙で連絡・要望があり対応しており、ビデオ通話を実現した。今年は新型コロナの影響で開催できていないが、家族会もあり、アンケートや交流を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで管理者・施設長と職員が意見交換を行い、代表者を含む毎月の会議の場で、現状報告・サービスの見直しの機会を設けております。	毎日のミーティングで職員の意見を広く聞き、必要に応じて代表者に連絡、相談を行い、意見が反映できるようになっている。プライベートな理由の勤務変更なども管理者が意見を聞き取り、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年ごとに職員全員で業務目標を立て、それぞれが自己評価を行い、管理者・施設長が目標達成度の評価も行います。ステップアップに繋がっていく環境整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は各職員の業務目標計画やこれまでの実績から施設内外での研修への参加や資格取得の為にサポートを行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は外部との交流の機会は限定的な形となっておりますが、事業所内の接骨院・デイサービス・グループホームのスタッフ全体での勉強会の開催や業務での交流の機会を設け、事業全体の連携力を高める取り組みを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に体験入所という形をとらせて頂いております。事前の協議やご家族様からいただいた生活歴等の情報を参考に、生活環境の変化や職員や周囲の入居者様とのかかわり方など、利用開始時の不安が軽減できるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に、ご家族様と支援が必要な点について協議させていただきます。ご家族様の生活環境や生活履歴も参考にさせて頂き入居者様への対応や連携が行いやすいよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の介護サービスの利用の状況・ご家庭での生活環境や入院先での状況などの情報を考慮し、また当施設での体験入所中のご様子から利用開始時に必要な支援の形を提案させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	イベントの開催や写真の掲載・施設で掲載する作品作り・生活の中での役割分担・入居者間の繋がりの尊重など職員を含めた共同生活であることを意識しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年はコロナウイルスの流行から自由な面会を禁止させていただき運びとなり、ご家族の皆様にはご心配をおかけしております。必要時に受診時の同伴や私物の補充などをお願いしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記と同じく、今年はコロナウイルスの流行から自由な外出や面会を制限させて頂いております。一部の入居者様はビデオ通話や手紙でのやり取りを行っておりますが入居者様全体という形では行っておりません。	家族との墓参りやいつもの店での食事、毎年の年賀状など馴染みの人や場所との関係継続支援を行っている。コロナ禍でも手紙や電話を通し家族や友人とのやりとりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性別や関係性を把握し、フロアの席・個室の入れ替え・入浴の順番を行わせていただく事もあります。生活歴などから入居者様同士が支え合う形に変化していく場面もあり良好な関係が保てるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも、ご家族からご相談を受けるケースがありました。ご希望があれば面会やご葬儀にも参列させていただく場合もございます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活を送る中で、入居当初と比べ身体面・精神面の変化から入居者様、ご家族様の希望・意向も変わっていくものと考え、ケアプラン作成時やご家族様との協議も参考に、入居者様ご本人の意向を伺い(またこちらから提案する場合があります)ケアに反映できるよう努めております。	入居者から直接意向を聞いたり、家族には電話で希望を聞くなどしている。意向を表出しにくい方は日々の様子から職員が意向や思いを汲み取り、家族に提案を行っている。意向や希望は毎日のミーティングで共有し、ケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様からの家庭環境や生活履歴情報を頂き、施設に私物を持参して頂いたり、ご希望があれば書籍の定期購読や好みの食品を用意させていただく場合もございます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティング・代表者会議・ご家族様へのお便りや受診結果などから身体面・精神面の変化を把握し、職員全体での情報共有に努めております。入居者様のリスク面だけでなく個性も理解し安心できる共同生活の支援に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上記と同じく、情報共有と支援について協議し個々の入居者様の担当職員・介護支援専門員がモニタリングを行い、入居者様の希望を踏まえ継続可能な介護計画を作成出来るように努めております。	6ヶ月ごとに見直しを行い、担当職員や管理者、看護師など5人程でサービス担当者会議を開催している。入居者や家族の意向を反映させながら計画作成を行っている。急激な状態変化が見られる時はその都度担当者会議を開き、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日作成する日誌や申し送り帳だけではなく、例として事故が発生した場合などに施設に設置されたカメラ映像をスマートフォン等を利用して共有。リスク管理だけでなく他の支援の面でもスムーズな連携が行えるよう情報共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの機能である小規模な共同生活以上の柔軟なサービスは対応できてはおりませんが、事業所内の接骨院・デイサービス・グループホームのスタッフの連携から部署内で限定された対応になっていないかを再確認できる機会になっていると考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は、近所の幼稚園・中学校との交流や、地域行事への参加などを行っております。また周辺には飲食店なども多いので、今年はテイクアウトを利用する機会が多く、外出が難しい状況の中での気分転換となるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様に受診の同伴をお願いする形となりますが、馴染みのかかりつけ医があれば継続して通院できる形で対応させて頂いております。また新しいかかりつけ医を希望される場合には看護師と協議し入居者の持病の経過やご家族様の生活環境を考慮し、かかりつけ医を提案させて頂いております。	希望に沿って主治医を選択できるように支援している。家族同行での受診時は、看護師が医師宛や家族宛に作成した書面で状態を報告したり、電話での相談にも応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設に在籍する看護師と日々の情報の共有に努め、看護師が不在な状況でも対応できるよう連携を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院・かかりつけ医との情報共有に努めております。コロナウイルスの流行から面会が出来ない状態が続いておりますが、ご家族様からの経過報告や病院スタッフとの協議を行い退院後のスムーズな支援が行えるよう心がけております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り対応不可であることをご説明させて頂いております。入居者様の状態変化時は、ご家族様・関係者と当施設でどのような形で支援が行えるか、他のサービスへの移行となるかを協議させていただきます。	看取り対応していないことを契約時に説明の上で入居いただいている。重度化予防のために嚙下等の勉強会も行っている。入退院を繰り返す等重度化された際も適切に支援しながら、次のサービス機関先の相談に乗るなど家族や関係者に丁寧な対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	デイサービス・接骨院スタッフも当施設で救急搬送訓練を行っており、緊急時や職員が不足する時間帯での連携が行えるようマニュアルも作成しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の地域との協力体制は全くない状態です。地域の防災マップの確認や災害発生時の避難訓練を行っております。水害や地震発生時の状況に備え数日分ではありますが非常食等の備蓄も行っております。	スタッフが地域の防災訓練に参加したりハザードマップを確認するなど、情報収集した上で施設としての対策をしている。年2回の避難訓練は併設のデイサービスと合同で行うこともあり、実際の場面で対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年、プライバシー尊重へ理解を深める為、勉強会を行っております。毎日の支援の場で職員本位になりがちな場面もありますので、その場で声を掛け合える職場環境になるよう努めております。	入浴や排泄時等では声かけなど日常からプライバシーに配慮したケアを心がけている。入居者のプライベートな情報も同意を得てから話題にするようにしている。年1回勉強会を開催し、プライバシー尊重への理解を深めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ある程度の生活の流れは決まっておりますが、ご希望があれば・ティータイム・食事・入浴日を変更する場合があります。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活の流れは決まっておりますが、体調や気分に合わせて食事の量・ティータイムやおやつの内容などを変更するなど、個々のペースや希望に配慮が行えるよう努めております。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節・体調・入居者様の好みに合わせた衣類の選択が行えるよう努めております。身体面の変化から、以前の衣類の着用が難しくなった場合など協議の上、職員が衣類の購入をさせていただきもさせていただきます。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達された食材を使い、職員が食事やおやつ作りを行っております。入居者様の好みや個々の食事形態に対応することも可能です。食事を楽しんで頂けるようベテラン職員からのアドバイスを参考に男性職員も調理を行っております。	ホームで調理をし、できたての食事を提供している。入居者の希望に応じて一緒にたこやきやおはぎを作ったり、すいかを食べたりして季節感を味わえるようにも配慮している。新型コロナの影響で例年のような外食はできないが、テイクアウトで楽しんでもらう等工夫もされている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量とおおよその水分摂取量を日誌に記録し、入浴には体重測定も行っております。体重測定のデータやかかりつけ医での検査結果をもとに、必要時には栄養補助食品を利用することもあります。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの促しと必要な方には口腔ケア介助を行っております。入れ歯の消毒を2日に1度行っております。毎年協力医が歯科検診を行い必要時には往診・治療も可能です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能の低下から入居者様全体の傾向として紙パンツ・オムツの使用率は増加しておりますが、居室の外にあるトイレに向かうことが難しい場合などにはポータブルトイレの活用など自立排泄が行えるような環境づくりに配慮いたしております。	入居者個々の排泄パターンを排泄表を使い把握している。把握した内容をもとに声かけの時間など工夫している。トイレまでの移動が困難な方はポータブルトイレを使用するなど負担の少ない方法で自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	業務日誌のレイアウトを変更し排便状況と便秘状態である事が把握しやすい形にしました。毎日の食事量・水分摂取量・服薬状況・入居者様の報告をもとに、看護師・介護員が情報共有しながら便秘の改善・予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	デイサービスと共用の大浴場を使用する為、ほぼ入浴日は決まっております。週に3回の入浴が行える形をとっておりますが、体調不良や病院受診などで予定の入浴が行えなかった場合や、入居者様からのご希望があれば別のユニットの予定日に入浴していただく事もございます。	入浴前に体重測定を実施、体調確認を心がけ、デイサービスの大浴場を利用したりしながら週に3回の入浴を基本としている。仲の良い入居者同士で入る方もいて、お互いに背中を流したり、広い浴槽でのびのびと手足を伸ばしたりして楽しんでもらっている。入浴後にはかき氷等、季節感あるおやつを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の午睡・入眠・起床時間を把握し、ご自分のタイミングで就寝・起床をサポート出来るよう配慮しております。認知症の進行等から睡眠サイクルが不安定な状態な場合などには、ご家族様・かかりつけ医と相談し睡眠導入剤を使用するケースもございます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医・薬剤師・当施設の看護師の指導のもと、薬の効能・副作用の理解・情報の共有に努め、種類や用量変更時には、体調変化等が無い確認を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や意欲に合わせた役割を持っていただいたり、毎月のイベントを企画し季節に合わせた作品作りをしたり、例年であれば施設からの外出時には歩行速度などを考慮し班を作り、無理なく外出を楽しめるよう配慮しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナウイルスの流行からご家族様との定期受診以外の外出を制限させて頂いており、施設の敷地内の駐車場やデイサービスフロアを利用してミニイベントを行い、気分転換の機会を設けさせて頂いておりますが、入居者様・ご家族の皆様には窮屈にお感じになる部分もあり、申し訳なく思います。	恒例の初詣やチンドンコンクール、外食など季節ごとに希望に応じた外出支援を行っている。現在は新型コロナの影響で外出できないが、屋外で花火大会を行うなど外での活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等を防ぐため、雑費等は管理させていただき ます(ご本人から確認しやすいよう事務所内でお 預かりさせて頂く場合もあります)。ご家族様から の預り金を使用させていただき希望された物品の 購入を行ったり、入居者様の買い物に同行する ケースもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からご希望があればご家族様との電話 対応を行っております。毎年施設行事として手書 きの年賀状をご家族様や知人に送る機会があり ます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度 など)がないように配慮し、生活感や季節感を 採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を している	各階で作成した工作物やイベント写真を各居室 やフロアに展示しております。季節感や生活感を 感じていただければと思っております。歩行状態 などを考慮しベッドの位置などレイアウトの提案を させて頂く場合もあります。	共用スペースと居住スペースが別エリアになっ ており、にぎやかさと静かさに配慮した作りになっ ている。廊下には入居者が作った作品や写真が掲 示されている。自室がわかりやすいように、居室ド アの色とトイレ入口ドアの色を分けたり、名前や目 印をして混乱しにくい配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った 利用者同士で思い思いに過ごせるような居場 所の工夫をしている	フロアのテーブル席以外にも、各個室・フロアなど 入居者様のご自分の好みの場所で、仲の良い入 居者様がそれぞれ訪室できるよう椅子を設置す るなどの配慮を行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地よく過ごせるような 工夫をしている	各居室に追加の衣装ボックス・TV・本棚を設置さ れる形が多いです。家具を持ち込まれる場合は 入居者様の生活スタイルに合わせたレイアウトに なるよう考慮いたします。イベント写真・工作物・ 思い出のある私物が飾っております。	転倒リスクのある方は、家具に掴まって移動でき るようにレイアウトされている。自宅で使用した 家具を持ち込んだり、家族の写真や自分の作っ た作品が居室に飾られたりして、居心地良い空間 になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立し た生活が送れるように工夫している	各居室やトイレのドアの色や形状が同じであるた め、ドアの色を変更したり居室前に表札をつける など迷われることが無いように配慮いたしてお ります。歩行状態や体調に合わせてフロアからの距 離や日当たりなども考慮いたします。		

2 目標達成計画

事業所名グループホーム中川原の家

作成日： 令和 2年 12月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	介護技術の統一を図り、職員のスキルアップを図る。	スタッフ全員が統一した介護方法、知識を勉強し取り組んでいきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍である為、講師を呼ぶことは困難な為、オンライン研修を探し、実施する。 ・定期的な施設内での技術に関する勉強会の実施及び職員が個々に得た情報を広めていく。 	24ヶ月
2	2	業務改善の見直し。	業務が各階スムーズに職員がこなせるように取り組んでいきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務自体の見直し。 ・専門職の業務の実態を見直し、全職員が把握する。 ・報連相の徹底。 	24ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。